

商店街におけるポケットパーク整備に関する研究

川越一番街商店街を事例として一*

A study of pocket park improvement in shopping street

A case study of “Ichibangai” shopping street in Kawagoe city *

坂部良介**・浅野光行***

By Ryouyusuke SAKABE**・Mitsuyuki ASANO***

1. 背景・目的

近年、全国の地方都市において中心市街地の衰退、人口流出、住環境の悪化などの問題が生じている。中心市街地に魅力を持たせない限り、商店街の商業環境はさらに悪化してしまうことが予想される。

商店街が抱えている問題は多岐に渡るが、公園や広場が効果的に整備されておらず、人がくつろぐスペースがない、商店街に魅力がなく活気がない、といった2点はその中でも重要な問題である。

これらの問題を解決するための方策の1つとして、ポケットパークのような憩いの広場の整備が考えられる。一般的にポケットパークとは、市街地の空地や建物前的小スペースを利用して設けられる小公園で、歩行者が休憩、滞留できるように設置した空間である。

ポケットパークを整備することによって滞留空間を創出し魅力的な空間を増やすことによって、歩行者の回遊性が様々なバリエーションを与えれば、消費種別がさかになり商店街に活力を与える可能性も考えられる。

ポケットパークや広場は、近年整備が進みつつあるが、このような空間の利用状況をみると、管理上の課題や、周辺との調和などの理由からあまり利用されていない場合が多い。

本研究では、川越一番街商店街にあるポケットパークの現状を把握した上で、商店街の来訪者と従業員のポケットパークに対する意識を把握して、快適に利用されるスペースを整備するための留意点を示すことを目的とする。また、観光客と地元住民のポケットパークに対する意識の違いを考察する。

2. ポケットパークの定義

本研究でのポケットパークの定義として、「商店街にあり、

*キーワード：ポケットパーク

**学生員、早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻

****フェロー会員

(東京都新宿区大久保3-4-1 51号館15階07室
TEL03-3286-3408、FAX03-5272-9723)

ベンチなどの休憩施設があって、歩行者が休憩、滞留できるように設置した場所」とする。ベンチのみが設置されたバス停前のスペースなどをポケットパークという場合もあるが、今回の研究ではポケットパークの定義に含まないことにする。

3. 対象地の概要、選定理由

(1)川越一番街商店街の概要、選定理由

川越一番街商店街は、JR埼京線川越駅から徒歩から2キロほど北側に位置し、江戸の風情を感じさせる蔵造りの街並みが残っている商店街である。

歴史的街並みの保存、電線地中化などの整備により、年間400万人もの観光客が訪れている。付近には、菓子屋横丁や大正ロマン通りなどがある。また、観光客一色の商店街ではなく地元向けの店舗が商店街の半数を占めている。

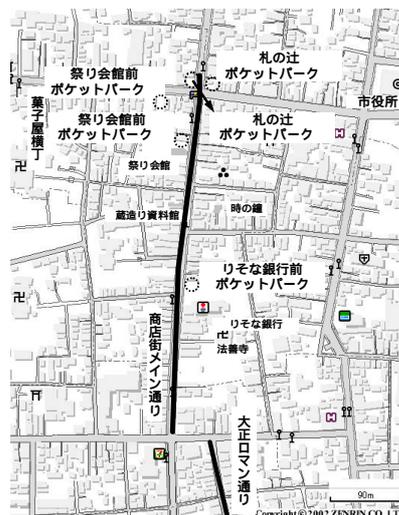


図1 川越一番街商店街地図

選定理由として、1つの商店街にポケットパークが5つ存在し、ポケットパーク間での利用実態、利用者意識、問題点の比較が可能である。商店街が観光地である一方で、地元住民向けの店も多く、観光客と地元住民との意識の差を比較することができる、といった2点が挙げられる。

4.各ポケットパークの現況把握

(1)現況の整理

一番街商店街に、5つのポケットパークが整備されていることを前述べた。まず、5つのポケットパークの現況をパリアフリーへの配慮、ベンチ数、周辺の交通環境、周辺の施設、管理状況、面積、モニュメントの有無、自然環境、商店街内での位置、観光掲示板・周辺地図・市掲示板の有無、喫煙所の有無、自動販売機の有無、トイレの有無、の13項目について整理した。それぞれのポケットパークの特徴は以下の通りである。

祭り会館前ポケットパーク

観光名所の一つである祭り会館の入口にあり、商店街通りに接している。祭り会館が整備されたのと同時に市が整備した。

祭り会館前ポケットパーク

祭り会館の駐車場の脇にあるポケットパークで、車道までの距離が長く、車椅子対応のトイレが整備されている。ベンチ数も多く、商店街から菓子屋横丁へと回遊する際の動線上にある。祭り会館が整備されたのと同時に市が整備した。

りそな銀行前ポケットパーク

他の4つのポケットパークは市が整備、管理を行っているがりそな銀行前ポケットパークはりそな銀行が整備、管理を行っている。他の4つのポケットパークに比べると、ゴミなどが散乱していて管理面で問題がある。ベンチ数は多く緑地率も高いが、ポケットパーク内に約15cmの段差がある。また、商店街通りに接していて来訪者の回遊動線上にある。

札の辻ポケットパーク

5つのポケットパークの中で一番面積が狭く(94.7m²)、ベンチが少ない。モニュメントが2つあり、観光掲示板と川越市掲示板がある。商店街の端にあり、県道を挟んで設置されているので来訪者には利用しづらい位置にある。

札の辻ポケットパーク

5つのポケットパークの中で一番面積が広い(182.2m²)が、ベンチ数は2つで、他の4つのポケットパークと比較すると少ない。また、ベンチの周辺に約20cmの段差がある。県道を挟んで設置されているので、来訪者には利用しづらい位置にある。

5.来訪者のポケットパークに対する意識

(1)来訪者ヒアリング調査の概要

来訪者のポケットパークに対する意識を把握するために、商店街来訪者にヒアリング調査を行った。サンプル数は65(観光客32サンプル、地元住民33サンプル)である。調査内容は以下の通りである。

表1.来訪者調査内容

個人属性	性別、年齢、職業、来街頻度、住所、来街目的
一番街商店街のポケットパークについて	ヒアリング時利用していたポケットパークの利用目的、ヒアリング時利用していたポケットパークの利用頻度
満足度	ヒアリング時利用していたポケットパークの各項目の満足度と、総合満足度(6段階評価)
ポケットパークを利用する際の重要度	階層図の項目を一对比較する
来訪者がポケットパークに整備して欲しい施設	ポケットパークに整備して欲しい施設を重要な順番に3つ回答
自由回答	ポケットパークについての自由回答

(2)一般的にポケットパークを利用する際の利用者の意識

a)ポケットパークにおいて重要になる要素の把握

商店街の来訪者が、一番街商店街とは関係なく一般的に商店街でポケットパークを利用する際どのような場所を利用したいと思っているのかを把握するために、以下の階層図を用いてAHP分析を行なった。有効サンプルは51である。

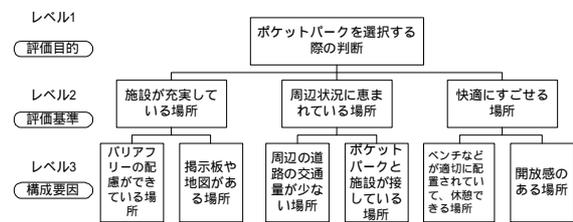


図2.AHP分析階層図

結果は、「ベンチなどが適切に配置されている場所」、「開放感のある場所」のウェイトが高いことがわかった。利用者は開放感があり適切に休憩施設が整備されている場所を利用したいと考えていることがわかる。

b)来訪者が整備して欲しいと思っている施設

一般的にポケットパークを利用する際に、ポケットパークにどのような施設があればいいと思うかを重要な順番に3つ回答してもらい、結果より百分率を求め比較を行った。その際、観光客と地元住民の意識の差を考察した。

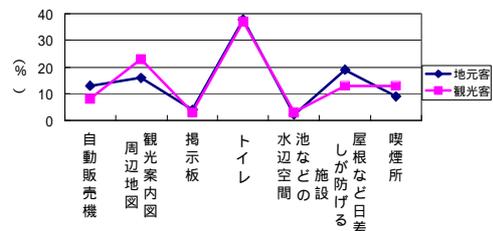


図3.観光客と地元住民の整備して欲しい施設

共にトイレが重要だという結果になった。観光掲示板や周辺地図において多少観光客の方が重要度が高い結果となっているのがわかる。

(3)一番街商店街のポケットパークに対する意識

a) ポケットパーク利用者の属性

ポケットパーク利用者の「来街目的」と「ポケットパークの利用頻度」のクロス集計を行ったところ、表2の結果を得た。観光目的で来街しているポケットパーク利用者が42%、その内初めてポケットパークを利用する人が35%となっている。以上より、観光目的で商店街に来て、初めてポケットパークを利用した人が比較的多いことがわかる。

表2. ポケットパーク利用者の属性

ポケットパークの利用頻度 (%)	商店街来街目的 (%)					
	観光	買物	散歩	美容	飲食	総計
来街時、毎回利用する	2	2	13	0	2	18
来街時、2~3回に1回は利用する	2	7	2	0	0	11
それ以下の利用頻度	4	4	9	4	0	20
初めて利用した	35	7	9	0	0	51
総計	42	20	33	4	2	100

b) ポケットパーク利用者の利用目的

ポケットパークを利用した人に対して、ポケットパークの利用目的に関して百分率を求め、観光客と地元客でそれぞれ利用目的の違いを考察した。

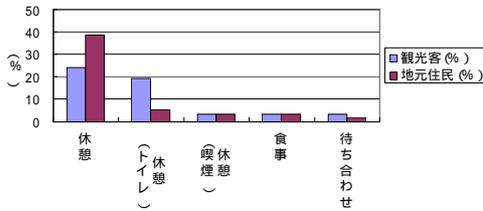


図4. 観光客と地元住民のポケットパーク利用目的

図4より、休憩目的の利用が圧倒的に多いのがわかる。観光客においては、トイレ利用が地元住民より多いことが明らかになった。ポケットパークに整備されたトイレは観光客の方が多く利用されていることがわかり、観光地においてはポケットパークにトイレを整備することが重要であるといえる。

c) 各ポケットパークの満足度の比較

各ポケットパークの満足度を求めるために、ポケットパーク利用者を対象に各項目に関する満足度と総合満足度を5段階評価で回答してもらい、平均値を求め比較した。サンプル数の少なかつた札の辻ポケットパーク、札の辻ポケットパークは比較の対象から外した。

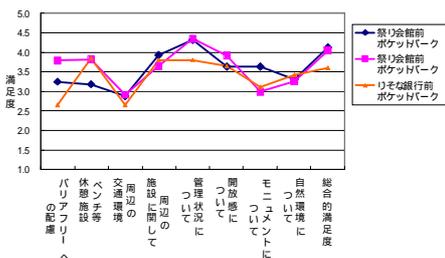


図5. 各ポケットパークの満足度の比較

バリアフリーに関して、祭り開催前ポケットパーク とりそな銀行前ポケットパークで母平均の差の検定を行ったところ、

有意な差が認められた。

りそな銀行前ポケットパークで満足度が低い要因として、段差と路面が凸凹していることが要因であることが考えられ、自由回答にもそのような意見が存在した。また、祭り開催前ポケットパークで満足度が高い要因として、バリアフリー対応のトイレがあることが要因であると考えられ、自由回答にもそのような意見が存在した。

周辺の交通環境については、どのポケットパークにおいても道路と接していて、交通量も多いので全てのポケットパークにおいて低い満足度となっていることが予想される。

次に、ポケットパーク利用者の中でも観光客と地元客とでポケットパークに対する満足度を比較する。サンプル数の関係で、ポケットパーク別では比較せず、祭り会館前ポケットパーク、祭り会館前ポケットパーク、りそな銀行前ポケットパークの3つのポケットパークを総合して満足度を比較する。

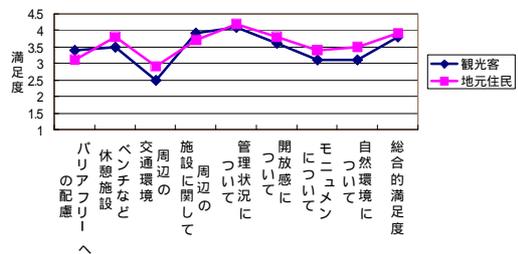


図6. 観光客と地元住民のポケットパークに対する満足度の違い

観光客と地元住民において分布の仕方は似ているが、「自然環境について」において、観光客と地元住民の間で母平均の差の検定を行ったところ、有意な差が認められた。理由として、地元住民よりも観光客の方が自然環境に関して要求が高いことが考えられる。

d) 総合満足度を与える影響が大きい要因

次に、ポケットパークの総合満足度と各項目の満足度との関係を把握するために、数量化理論 類分析を行う。目的変数として、ポケットパークの総合満足度、説明変数としてポケットパークの各項目の満足度とした結果、表3のような結果になった。

表3. 数量化理論 類結果

目的変数	項目名	レンジ	偏相関
ポケットパークに対する総合満足度	バリアフリー	0.3624 2位	0.3505 4位
	ベンチ	0.2292 4位	0.4260 2位
	交通環境	0.2324 3位	0.2677 6位
	周辺施設	0.1140 7位	0.2249 8位
	管理	0.6054 1位	0.5966 1位
	開放感	0.1934 5位	0.4032 3位
	モニュメント	0.1071 8位	0.2809 5位
	自然環境	0.1252 6位	0.2252 7位

判別の中率が87.9%、相関比が0.5475と比較的良好な結果が得られた。

結果より、「バリアフリーへの配慮」、「管理状況」、「ベンチなど休憩施設に関して」といった項目の影響

力が大きいことがわかる。

6. 従業員のポケットパークに対する意識

(1) 調査概要

従業員のポケットパークに対する意識を把握するために一番街商店街の従業員にヒアリング調査を行った。サンプル数は17である。

表4. 従業員調査内容

店舗の属性	業種、業務対象年齢
満足度	商店街にあるポケットパークの満足度と総合満足度(6段階評価)
ポケットパークを整備する際に重要視すべき項目の把握	ポケットパークを整備する際の、各項目の重要度(6段階評価)
施設重要度	ポケットパークに整備したほうがいい施設を重要な順番に3つ回答
自由回答	ポケットパーク、商店街の整備についての自由回答

(2) 調査結果

a) ポケットパークを整備する際の重要度

「管理状況」、「バリアフリーへの配慮」、「周辺の交通環境」、「ベンチなどの休憩施設」といった項目の重要度が高いことがわかる。

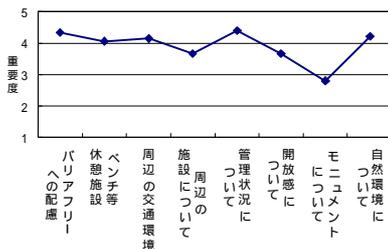


図7. 従業員が考える各項目の重要度

b) 従業員が整備すべきだと思っている施設に関して

商店街の従業員に対して、ポケットパークにどのような施設があればいいと思うかを重要な順番に3つ回答してもらい、それぞれの施設の重要度の百分率を求め比較する。

「観光案内図や周辺地図」、「トイレ」、「雨や日差しを防げる屋根」の順に重要だという結果になった。



図8. 従業員が考える施設重要度

来訪者の結果と比較すると、従業員は「観光掲示板や周辺地図」に関して来訪者より重要視していること

がわかる。従業員の方が、観光地としての意識が高いことがわかった。

7. まとめ・考察

本研究では川越一番街商店街にあるポケットパークの現況を把握した上で、商店街の来訪者と従業員のポケットパークに対する意識、観光客と地元住民のポケットパークに対する意識の違いについて考察を行った。得られた知見は以下の通りである。

- ・来訪者はポケットパークを利用する際に快適に過ごせるかどうか重要であり、利用者はポケットパークに休憩施設としての機能を求めている。

- ・観光客はポケットパークに対して自然環境への要求が高い。

- ・「バリアフリーへの配慮」、「管理状況」、「ベンチなど休憩施設の充実」の三つの項目が、ポケットパーク利用者の総合満足度に大きな影響を与えている。この点では、従業員が重要視している点と一致している。

- ・地元住民、観光客、従業員ともにポケットパークに「トイレ」を整備すべきだと考えている。

以上より、利用者にとって利用しやすいポケットパークを整備する際の留意点をいくつか提示する。まず、休憩施設を充実させることが挙げられる。また、川越一番街商店街のような観光地としての特性をもつ商店街の場合、利用者として観光客が多くなるので、ポケットパークにトイレを設置すると有効であることがわかる。また、整備後の管理も重要である。浮浪者が溜まってしまったり、ゴミが散乱してしまうようなことがないように管理をすることが求められる。

8. 今後の課題

本研究は、観光地としての特性を持つ川越一番街商店街での結果であるので、一般性を持たせるには他の事例でも同様の調査をする必要がある。また、調査を行ったのが真冬であったので、気候が利用者の意識調査の結果に影響を与えていると思われる、他の季節にも調査を行う必要がある。

参考文献

- 1) 造景no.30 建築資料研究社
- 2) 伊東孝祐・山川仁・秋山哲男(1991)「旧東京市市街地における橋詰広場の空間特性と利用実態」土木学会第46回年次学術講演会講演概要集第4部 pp.506-507
- 3) 佐藤夕子・滝口善博・木村一裕・清水浩志郎(1997)「都市空間における魅力ある小スペースの空間構成」土木学会第52回年次学術講演会講演概要集第4部 pp.488-489